



サワラ（日本海・東シナ海系群）

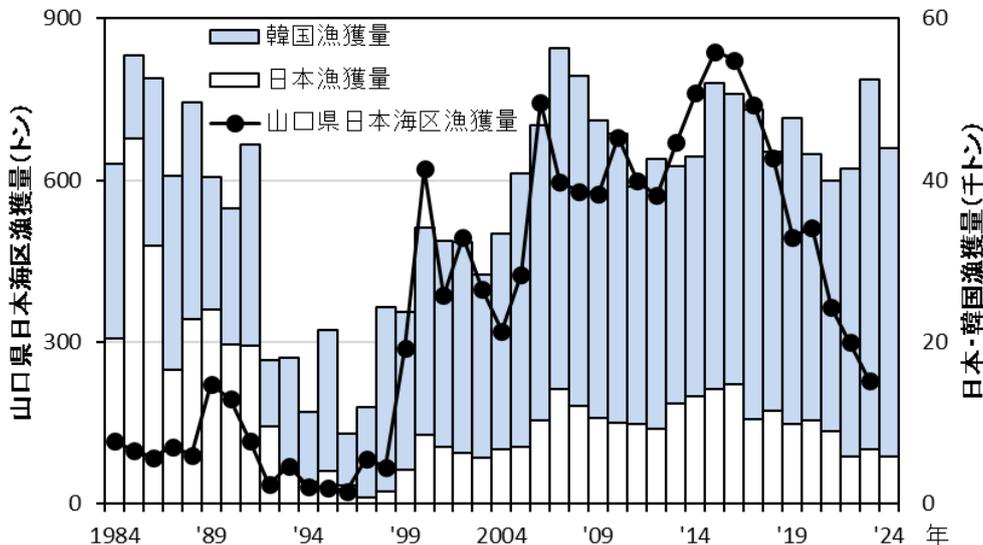


図 山口県日本海区サワラ漁獲量（漁業・養殖業生産統計年報）及び東シナ海系群サワラ漁獲量（日本+韓国）（(国研)水産研究・教育機構 資源評価報告書）の推移

【漁業】サワラは主に定置網と曳縄釣りで漁獲され、秋から冬には主に小型のサゴシ（当歳魚）、冬から春には中・大型のサワラ（1歳魚以上）が漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は、1997年以降増加傾向に転じ、2006～2014年には571～761トンと高水準で推移した。しかし、2015年に838トンと過去最高を記録して以降は減少し、2023年は229トンとなった。

本系群の漁獲量は、1980年代は1.7～4.5万トンで推移したが、1990年代に急激に減少し、1997年には822トンまで落ち込んだ。しかし、その後は増加傾向に転じ、2005年以降は1万トン前後で推移している。2024年の漁獲量は5.9千トンであった。

【資源状態】大中型まき網および大型定置網の標準化 CPUE を相乗平均した資源量指標値は、1990年代から2000年代後半まで上昇し、その後は横ばい傾向にあったが、2024年は1.40と増加した。2024年の資源状態は目標水準の80.0%を上回り、86.1%の資源水準であると評価された。

	2024年	目標水準	限界水準
資源水準	86.1%	80.0%	56.0%
資源量指標値	1.40	1.26	0.97